①ウキ釣り仕掛け

青物狙いは回遊コースとなる潮目やヨレなどの潮の変化、スズキ狙いは地形変化の多い波止回りをメーンに浅いタナを探ります。基本的な釣り方は仕掛けをキャストしたらリールのベールを返し、潮の流れに合わせてラインを少しずつ送りながらアタリを待つだけと簡単です。ウキが瞬時に消し込まれるとともに勢いよくラインが引き出される豪快なアタリはヤミツキになること間違いなし!!

道糸：ナイロン４～５号150㍍以上

トラブルの少ないナイロンが基本です。餌の小魚に負担がかからないように潮の抵抗を受けにくいフロートタイプをセレクトしましょう。号数は、足場のよい波止でハマチ～ブリ（90㌢クラスまで）、80㌢のスズキを想定するなら４～５号が適当です。

ウキ止め

位置をかえることでウキ下の長さ（タナ）を調整するアイテムです。種類は糸とゴムの２タイプがありますが、太い糸にも対応する糸タイプを用いましょう。

シモリ玉

ウキがウキ止めを通過しないようにするためのアイテムです。使用する道糸が通る穴径のものを選びましょう。穴がテーパー状になっているものは細い方から道糸を通します。

中通しの発泡ウキ４～８号

餌の小魚が動き回っても安定して浮くぶんトラブルが少ない中通しの発泡ウキを使用するのがおすすめです。沖の潮目まで流すこともある青物狙いでは視認性と潮乗りを重視して大型を使用しますが、波止回りを探るスズキ狙いでは小さくてもＯＫです。

ウキ止めゴム（サルカンからの距離はウキの全長＋約５㌢）

仕掛けとウキがからまないようにするためのストッパーとしてヨウジで止めたゴム管をセットします。

中通しオモリ３～５号

生き餌を自由に泳がせるためにセットしないベテランも多くいます。表層も意識して回遊することが多い青物を狙う際はその傾向が顕著です。その点、足もとがポイントになることが多いスズキ狙いでは餌の動きをコントロールするために使用した方がよいといえます。青物狙いでも生き餌がずっと浮いているときはオモリの使用を考えましょう。重さは使用するウキの号数よりもワンランク軽めというのが標準です。丸玉型やタル型など形状は問いません。強い引きの衝撃をやわらげる効果があるクッションつきを選ぶのもよいでしょう。

ハリス：フロロ３～４号１㍍前後

長さは１㍍前後が標準。号数はターゲットのサイズや釣り場の事情に合わせて選択します。50㌢までのハマチクラス、60㌢のハネクラスなら３号、青物・スズキともにそれ以上のサイズは４号を用いましょう。足もとにテトラが入っているときはワンランクからツーランク上の号数を選ぶと安心です。

磯竿３～４号５㍍前後

パワフルかつ俊敏な青物やスズキの大物（ときには１㍍超級も!!）の疾走に対して主導権を持ってやり取りするためにパワーのある３～４号クラスの磯竿が必要です。やわらかい竿ではファイト中に折れる危険性もありますし、強い引きに太刀打ちできず、自由に走られて周囲の大勢の方々の仕掛けとオマツリすることもあるから要注意です。磯竿の他、20～25号程度の投げ竿、メジロクラス（70㌢）の青物や80㌢のスズキまでのサイズならシーバスロッドなどのかためで長いルアーロッドでも代用できます。

中型スピニングリール

大物とのファイトを考慮し、４～５号の道糸が150㍍以上巻けるうえに巻き取りのトルクが強い4000～5000番クラスの中型のスピニングタイプを選択しましょう。俊敏な引きにも追従するスムースなドラグ機構を持つタイプが理想的です。

サルカンとの結束方法

※クリンチノット

①サルカンにラインを通してⒶに４回以上巻きつけ、サルカン側にできた輪に通す

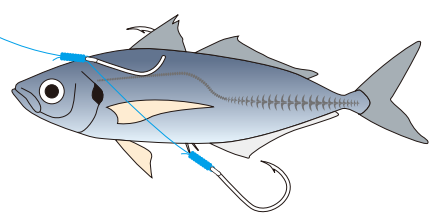
②さらにできた輪に通し、結び目にツバをつけてからⒶを引っ張り締め込む

③しっかりと締めつけられたら端線をカットして完成

サルカンへの接続はクリンチノット

サルカン８～10号

道糸とハリスを接続するためのアイテムです。ヨリモドシとも呼ばれるように仕掛けのヨレを軽減する効果があります。大型の青物を想定して強度のある８～10号を選びましょう。
クッションつきのオモリと同様に、強い引きの衝撃をやわらげる効果があるサルカンつきのクッションゴムをここへセットするのも有効です。



ハリ：伊勢尼９～11号、ブリ・ヒラマサバリ10～12号

餌を丸飲みさせて釣るためハリのサイズが大きいほど掛かりがよいうえにファイト中にバレにくくなりますが、餌が弱りやすいというマイナス面もあります。秋に釣れる15㌢前後のアジを使う場合は伊勢尼９～11号のサイズを選びましょう。
小魚にハリを刺して狙う飲ませ釣りでは、合わせたときにスッポ抜けるなどハリ掛かりのわるさが目立ちます（小バリほど顕著）。それを解消するために５～10㌢ほどの間隔（アジの体高＋１～２㌢が目安）を空けてハリを２つセットする孫バリ仕掛けを使うベテランが多いです（餌は上バリにセット）。なお、ハリとハリの間隔が短くて作製しにくいならカンつきバリを使うとよいでしょう。